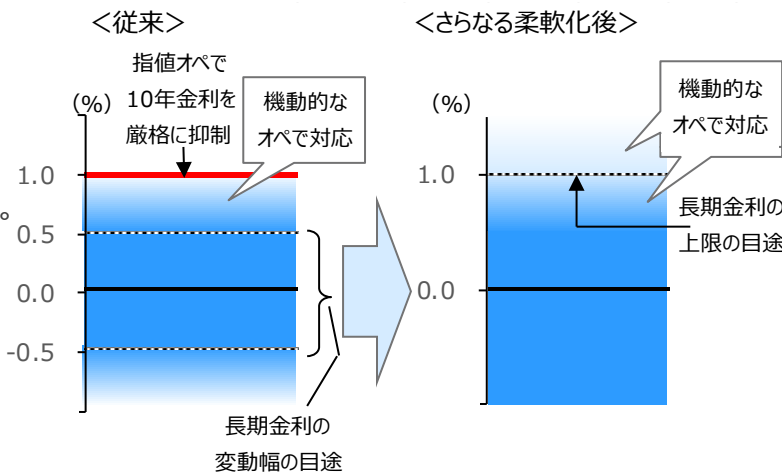


日銀、YCCの運用をさらに柔軟化

ポイント① 日銀、YCCの運用をさらに柔軟化

日本銀行は、30-31日に開催した金融政策決定会合で、イールドカーブ・コントロール（長短金利操作、以下、YCC）の運用をさらに柔軟化することを決定しました。従来のYCCでは、10年金利を1.0%で厳格に抑制するように、原則、毎営業日の指値オペ（公開市場操作）を実施していました。今回の修正では1.0%の水準を、「厳格な上限」から「目途」に変更し、指値オペは毎営業日から、金利水準や変化のスピードに応じた機動的な運用に柔軟化しました。情勢変化に応じた金利形成が行なわれるなど、市場機能を維持する狙いがあります。

イールドカーブ・コントロールの運用の柔軟化



(出所) 日本銀行資料より野村アセットマネジメント作成

ポイント② 物価見通しの上振れ

同日に発表された「展望レポート」では、生鮮食品を除く消費者物価指数が、2023年度～2025年度を通じてそれぞれ上方修正となりました。主な要因は、輸入物価の上昇を起点とする価格転嫁の影響が長引いていることや原油価格の上昇ですが、植田総裁は「物価目標実現の確度が少し高まっている一方で、不確実性が高く、現時点では物価安定の目標の持続的・安定的実現を十分な確度を持って見通せる状況にはなお至っていない」とし、物価上昇に伴う賃金上昇の継続性が重要としました。

日銀政策委員の大勢見通し (2023～2025年度)

	(前年度比)	
	実質GDP (国内総生産)	消費者物価指数 (除く生鮮食品)
2023年度 (今回見通し)	+1.8% ~ +2.0% < +2.0% >	+2.7% ~ +3.0% < +2.8% >
7月時点	+1.2% ~ +1.5% < +1.3% >	+2.4% ~ +2.7% < +2.5% >
2024年度 (今回見通し)	+0.9% ~ +1.4% < +1.0% >	+2.7% ~ +3.1% < +2.8% >
7月時点	+1.0% ~ +1.3% < +1.2% >	+1.8% ~ +2.2% < +1.9% >
2025年度 (今回見通し)	+0.8% ~ +1.2% < +1.0% >	+1.6% ~ +2.0% < +1.7% >
7月時点	+1.0% ~ +1.2% < +1.0% >	+1.6% ~ +2.0% < +1.6% >

(注) 「大勢見通し」は、各政策委員が最も蓋然性の高いと考える見通しの数値について、最大値と最小値を1個ずつ除いて、幅で示したものであり、その幅は、予測誤差などを踏まえた見通しの上限・下限を意味しない。< > は政策委員見通しの中央値

(出所) 日本銀行「経済・物価情勢の展望 (展望レポート) 2023年10月」より野村アセットマネジメント作成

ポイント③ 市場は円安・米ドル高で反応

決定会合を受け、日本時間31日の外国為替市場では円安・米ドル高に動きました。YCCの更なる柔軟化は想定内と受け止められ、日米金利差を意識する売買が優勢となりました。植田総裁は物価目標達成に関して、来年の春季労使交渉を一つの重要なポイントとし、目標達成の見通しが立つまではマイナス金利政策やYCCなどの緩和政策を継続するとしました。

重要 イベント	11月15日 日本GDP (国内総生産、7-9月期、1次速報値)
	11月24日 日本消費者物価指数 (10月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書 (交付目論見書) の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。